

事業所名 グループホーム雅

## 運 営 推 進 会 議 開 催 報 告 書

開催予定日時 令和3年7月16日(金) ※コロナウイルス感染予防のため、照会依頼にて参加予定者から意見を聞き取りする。	
参 加 者 (照会依頼含む)	議 題
利用者 0名	① 利用者様状況報告
利用者家族 0名	② 行事報告
地域住民の代表者 3名	③ 身体拘束適正化検討委員会
市職員 1名	④ 質疑応答
地域包括支援センター職員 1名	⑤ 次回開催予定日
事業所 4名	
会 議 録	
<p><b>① 利用者様状況報告</b></p> <p>男性2名、女性6名の計8名様が入居しています。        最年長：女性89歳 最年少：女性78歳        平均年齢 83.6歳</p> <p>5月29日、女性利用者様1名退居されました。        新入居者様、7月中に入居予定です。</p> <p>要介護度        要支援2…0名 要介護1…0名 要介護2…4名 要介護3…2名        要介護4…2名 要介護5…0名        平均要介護度 2.75</p>	
<p><b>② 行事報告</b></p> <p><b>6月18日、7月4日…御利用者各1名の誕生日会</b>        ・職員のメッセージ入り色紙と皆様の歌でお祝い致しました。おやつでショートケーキを召し上がって頂きました。</p> <p><b>6月21日…父の日</b>        ・昼食にお寿司を召し上がって頂きました。男性利用者様には職員が折り紙で作った黄色いバラをプレゼントさせて頂きました。</p>	

## 7月 5日…七夕、短冊・飾り作り

利用者様と職員で、短冊に願い事を書いたり、折り紙で飾りを作ったりしました。

### ・ 予定行事

8月 花火、利用者様2名の誕生日会

9月 敬老会

## ③ 第19回 身体拘束適正化検討委員会…転倒

1. はじめに
2. 転倒を回避するために行われがちな3つの身体拘束
3. 身体拘束を行わずにグループホーム雅で行っている転倒防止対策について
4. まとめ

## ④ 質疑応答

### ○「身体拘束を行わずにグループホーム雅で行っている転倒防止策について」

様々な工夫を行いながら、転倒防止策を実施していることに感心いたしました。「ご利用者様の情報の把握」はとても重要と感じます。情報の把握や共有は、偏りが出たり、十分に行えなかったりすることもあります。グループホーム雅様は、どのような視点で、どのような方法で情報収集や把握を行っていますか。また、スタッフ間での情報共有や伝達等はどのように行っていますか。(瀬戸市役所 高齢者福祉課様)

→入居される前が入院や介護施設だった場合、それぞれの関係機関から情報収集を行います。具体的には、既往歴や排泄パターン、利用されていた時のご様子など細かく聞き取りをします。本人様や、ご家族様からは、生まれた場所、育った場所、性格、趣味、入浴や食事の好き嫌い、歩行の状態など出来るだけ細かく情報をお聞きします。偏りが出たり、十分に行えなかったりするかもしれませんが、情報はなるべく多く集めます。

スタッフへの伝達は申し送りと連絡ノートにも記入して伝えています。申し送りが上手く伝わらなかったり、また、文章だけだと勘違いをする事も有りますので、直接、情報を聞いた者が申し送りに参加して、伝えたり訂正して正しく伝わるようにしています。

○連日のジメジメむしむし、行動も狭くなりますね。カラッと晴れる日が待ち遠しいですが、次は暑さとの戦いです。気持ちを強く持ち頑張りましょう。身体拘束は無意識のうちに結構身近におこってしまう事もあるんですね。福祉用具の間違った利用、これには目からウロコの気持ちでした。良かれと思ってとか便利とかいろいろあるけど、勉強になりました。雅さんの行っている防止対策は、いつも見つめている意識があふれていて、当たり前なのでしょうがとても良い。うれしいです。(利用者様ご家族)

→いつもありがとうございます。今年も猛暑が続くと思われます。本当にこれからは暑さとの戦いです。暑さは、命にも関わってきます。いつも以上に水分補給や室

温の管理をしっかり行い、乗り切りたいと思います。

身体拘束をしないことは、もちろんのこと、転倒などの事故なく毎日をご自由に過ごして頂く。さり気なく見守り、また、側にいて転倒しそうな時はさりげなく支える。

ご本人の自由を奪うことが身体拘束になります。「誰かが側に居ないと何も出来ない」と思われるのではなく、困っている時に側に居て「助かったわ」と思われる介護をしていきます。

- 「転倒・骨折」は、介護が必要となる要因は老衰と並んで3位になっています。転倒防止対策の基本的なことからしっかりと明記してあり、しっかりと対策が講じられていると思います。包括支援センターも相談系の仕事をしていると転倒をして骨折したとの相談はあります。自宅訪問を行い、本人、介護者の身体状況や環境面等把握をし、転倒防止対策をしています。転倒、骨折は避けられるものではありませんが、起ってしまったら、原因は、環境、設備・機器、作業方法、自分自身、当事者の身体、健康状態等はどうであったか分析を行い、今後の対策を職員全員で話し合いを行うようにしています。今後ともよろしくお願い致します。(水野包括支援センター様)

→ありがとうございます。歩行不安定な方は特に、自由に動くことと事故は背中合わせあるものだと考えています。転倒を恐れ常に職員が側に居ては、ご本人の自由を奪うことになります。大切なのは、身体状況や環境などを把握することと、見守りを行い転倒リスクを極力減らすことと考えています。

○いつもお世話になっております。毎回、資料ありがとうございます。常にご利用者さんのお気持ちを考え今、何を求めているのか把握して不安を取り除いてあげられる事が出来ればと思います。中々声を掛けたくてもためらってしまう人もいらっしゃるかと思います。今はマスク生活が当たり前になり、顔の表情が解かりづらい事で大変な時でもありますが、毎日安心して楽しい日々を過ごして頂けたらと思います。ありがとうございます。(民生委員様)

→ありがとうございます。御利用者様には、毎日を安心して楽しく過ごして頂く為、不安が軽減できるよう、職員が関わり対応しています。マスクを着用していると表情が分かりにくく、声もこもったりする為、御利用者様に思いが伝わりにくい時もあります。その都度ゆっくり丁寧に説明しています。相手の気持ちを知る事が、事故を防ぐ事に繋がり、身体拘束をしない良い介護にも繋がりますので、今後も続けていきたいと思ひます。

## ⑤ 次回開催予定日

2021年9月17日(金) 14:00~